



まちづくり懇談会を 開催しました

8月25日(月)、留萌産業会館2階大ホールにて、令和7年度1回目となるまちづくり懇談会を開催し、59人が参加しました。

特集

問 市・政策調整課

TEL 42-1809

第1部 市からの情報提供

① 留萌市の財政状況

道路や橋の整備、小中学校の大規模改修などで活用した一般会計の市債（借金）残高は、令和6年度見込みで125億円あり、10年間で18億円減少し、計画的に返済が進んでいます。そのうち、国から財政支援がある部分を除いた市の実負担残高は40億円となります。また、一般会計の基金（貯金）残高は令和6年度見込みで64億円あり、10年間で29億円増えており、コツコツ貯金をしている状況です。

財政指標は正常値を維持していますので、財政状況は健全です。財政力と返済能力をしっかりと見極めながら、安心を守り、未来を育てる財政運営を行っていきます。



② 留萌市地域公共交通計画の概要

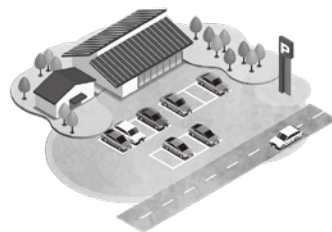
留萌市地域公共交通計画は、人口減少やバスやタクシーなどの運転手不足が進み、これまで当たり前に行っていた公共交通が曲がり角に立つ中、どのように公共交通を維持していくかを考え、計画を策定しました。計画期間は、令和7年度から11年度までの5年間で、「多くの市民が利用する、まちづくりと一体的に取り組む持続可能な地域公共交通体系の再構築」を基本理念として、①広域交通・地域間交通の維持・確保②市内公共交通体系の再構築③公共交通利用活性化策推進の3つを基本方針としています。基本方針に基づき①JR留萌本線廃線後の代替交通の維持・見直し②市内バス路線の再編③高齢者向けバス利用促進策の実施などを施策例として挙げています。



③ 「道の駅」第3ステージ応援パッケージの選定

「道の駅」第3ステージ応援パッケージとは、「道の駅」を活用した地域活性化を目的に、地方創生の拠点として、「まち」と「道の駅」が一体となって「まちぐるみ」での取り組みを推進し、新たな機能やサービスの向上、施設の整備に向けて、国が重点支援を行うものです。今年4月、「道の駅るもい」は全国10カ所のうちの一つに選ばれました。

今後は「道の駅」エリア内における新たな滞在空間の創出、まちなかへのシームレスな空間形成の促進、新たな人流や賑わい再生の実現と民間投資の誘発に取り組む予定です。



第2部 質疑応答（一部抜粋）

Q. 市民

留萌市の財政状況の中で「お金を我慢してきた」という発言があったが、その我慢が解けたら、何を目標にこのまちの市政をやっていくのかをお聞きたい。



A. 中西俊司市長

我慢をしてきたという部分については、平成19年、留萌市の財政状況は財政再生計画を立ち上げる近くまで悪化し、本当に市民の皆さんの協力をいただきながら、財政の健全化に努めてきた。

完全にそれが解けるわけではないが、人口減少に伴って一人ひとりが補う負担が増えてくるなかで、持続可能な財政運営というのを目指しながら、なるべく住民負担を多くしないよう進めながら、ライフラインを守っていく。

また、人口減少が進む中でまちの賑わいをなくさないためにも、現在、道の駅周辺エリアに力を入れることによって交流人口や関係人口を増やし、経済の流れを良くしていくことが重点的に行うことだと考えている。

Q. 市民

公共交通の一つの選択肢として、ライドシェアは考えられますか。



A. 中西俊司市長

ライドシェアについての様々な課題というのがあることも認識し、地域公共交通計画策定の中で、議論をしている。

しかし、現在、運行している交通事業者との関係性も含めて、実施に至っていないという状況。

いずれライドシェアの流れがくるとも考えており、継続的に地域公共交通活性化協議会の中で議論はしていくということでご理解をいただければと思う。

第1回 まちづくり懇談会



まちづくり懇談会の開催結果や配布資料については、市ホームページでもご覧いただけます。また、YouTubeに当日の動画をアップロードしておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページのQR▼



YouTubeのQR▼

